

標準施工仕様書						
■平滑仕上げの場合						
工程	材料・調合		塗装方法	塗回数	間隔時間(23℃)	所要量
素地調整	埃、油脂分など汚れなどはサンドペーパー、ウエス、水洗などで除去し、乾燥した清浄な面としてください。					
下塗り	下地の種類により下塗材が必要になります。(押出成形セメント板、GRC板、P.C、硬質塩化ビニール、FRPなどには下塗りとして「キクスイSPパワーシーラー」を使用してください。)					
上塗り	ラーテル	主材:12kg 硬化剤:2kg ラーテル専用シンナー:0~1.5L	刷毛、ウールローラー エアレススプレー	2	工程内3以上	50~58㎡/14kgセット 0.24~0.28 kg/㎡

■鉄部の場合						
工 程	材料・調合	塗装方法	塗回数	間隔時間(23℃)	所要量	
素地調整	・塗装面に付着したミルスケール、ほこり、油脂分などは入念に除去し、乾燥した清浄な面としてください。 ・さびや粉化物はサンドペーパーやディスクサンダー等の電動工具を用いて除去してください。					
下塗り	キクスイ S Pプライマーエボ 主材:16kg 塗料用シンナー A:0.8～1.6L	刷毛、ウールローラー	1	4以上7日以内	106～123㎡/16kg 0.13～0.15kg/㎡	
上塗り	ラーテル 主材:12kg 硬化剤:2kg ラーテル専用シンナー:0～1.5L	刷毛、ウールローラー エアレススプレー	2	工程内 3 以上	50～58㎡/14kgセット 0.24～0.28kg/㎡	

■複層仕上げ(硬質主材/微弾性主材/弾性主材共通)						
工 程	材料・調合	塗装方法	塗回数	間隔時間(23℃)	所要量	
素地調整	・旧塗膜に浮き、剥がれなど劣化部や脆弱部がある場合は、サンダーや皮スキなどで除去し、必要に応じて模様合わせを行ってください。 ・埃、油脂分など汚れなどはサントペーパー、ウエス、水洗などで除去し、乾燥した清浄な面としてください。					
下塗り 主材塗り	下塗り、主材塗りの仕様に準拠します。(ソフトリカバリー、キクスイ 弾性タイル・ルナ 等) ※キクスイラバーウォール、透湿弾性タイルRE・L は不可。					
上塗り	ラーテル	主材:12kg 硬化剤:2kg ラーテル専用シンナー:0~1.5L	刷毛、ウールローラー エアレススプレー	2	工程内 3 以上	50~58㎡/14kgセット 0.24~0.28kg/㎡

注1 施工用具・条件は代表的なものです。 注2 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
注3 上記の仕様以外は、最寄りの営業所へご相談ください。 注4 半艶・3分艶は、艶がより性能が落ちる可能性があります。

荷 姿	ラーテル	14kg セット (主材:12kg 硬化剤:2kg)	艶	艶有・半艶・3 分艶
	ラーテル専用シンナー	16L		
	キクスイ S P パワーシーラー	15kg セット (主材:12.5kg 硬化剤:2.5kg)	色	淡彩～濃色
	キクスイ S P プライマーエポ	4kg、16kg		
※色相により、対応できない色もございます。				

※色相により、対応できない色もございます。詳しくは、
最寄の営業所にお問い合わせください。

※必ず見本板で確認をしてからご注文ください。

注 意 事 項 (溶剤形上塗材)

【施工上の注意事項】

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率10%以下、pH 10以下で施工してください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤【KSKクリーナー】などで殺菌洗浄を行ってください。
- コンクリート下地の旧塗膜の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後に、【キプス】(透水性プライマー-E)や、【キプスSP】(プライマー-E)を使用してください。
- 押出成形セメント板、GRC板、軽ケレン材(木板)などに、下塗りとして【キプスSP】(プライマー-E)や、【キプス EPW】(EPW)を使用してください。
- ALCや繊維強化コンクリートなど、強度がなく劣化の場合は、セメント系下地調整塗材【BR#15】等で処理してください。
- 無機塗料、特殊下地の塗装及び特殊塗膜の場合は、最寄りの弊社営業所に相談ください。
- 無機塗料・繊維強化コンクリート製品などは、塗膜との接合を避けてください。可塑剤のブリードによる結晶が起る場合があります。
- 暑熱あるいは建材(軽量モルタル、ALC、窓系系樹脂製品、発泡ウレタン使用建材など)に塗装する場合は、暑熱や水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なると建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。採用に当たっては最寄りの営業所に相談ください。
- 大きな動きや予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。
- 下地が弾性系塗膜の場合は、弾性系上塗材を使用してください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受け場合(高湿度、結露、降雨等)塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が遅くなりますので施工を行わないでください。
- 外部の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 地えす結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。
- 施工時は飛散防止や養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺(車や付帯設備を含む)や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行なうなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 開封後は、早めに使用してください。
- 二液反応硬化型の材料の場合は、主材と硬化剤を指定の比率で混合し、ミキサーで混ぜ合わせ使用してください。特にけい酸系を使用する場合、計量器を用いて行うこと、混ぜ合わせ後の材料は、可塑時間内に使い切ってください。また、可塑時間は温度、希釈率などの条件により変わりますので、注意してください。
- 材料の希釈率は希釈率の不足により、所定の所要量を守り前回の試験塗りなどで決定してください。希釈の過多、不足はシラや膨べ、不足、仕上がり不良の原因となります。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び開隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 色、模様決定に当たっては事前に色見板を確認してください。
- 被塗物の形状、厚さ、塗厚、希釈率などの違いにより塗膜のつやや異なると見える場合があります。また、刷毛、ローラー塗装の塗継ぎ箇所でも起こる場合があります。特に調整製品は、被塗物の形状、素地の状態、湿度、色相、塗り厚にわたる乾燥時間等により、実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、施工してください。
- 既存塗膜の剝離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ローラー塗りの場合は、ローラー目は同一方向に揃えるように仕掛けください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 傷など穴がぽつぽつとある場合は、補修用(使用塗料の入れ替えを取って、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください)。
- 他の材料と混ぜて使用しないでください。
- 下塗後には刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。
- 下塗後及び上塗材に溶剤系の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法を厳守してください。
- 湿気気取りの材料は、開封後は空気中の水分と反応しますので速やかに使用してください。また、シンナーにより密栓を行ってください。
- つや調整製品は、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします。
- つや調整製品は、塗料が分離しやすいので、良くミキサーで混ぜながらご使用ください。
- 刷毛やローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いによって若干の色相差が生じます。希釈率を調整するなどして塗装してください。
- 濃色や原色に近い色塗は塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位には施工は行わないでください。施工する場合は、グリーナーによる保護塗装を行ってください。
- 上塗り：黄色、青色、緑色の彩度の高い色を塗装する場合、膨べ、性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして其色を塗装してください。
- 水性塗料には動物毛の刷毛は固まり塗膜に支障が出ますので化粧用の刷毛を使用してください。
- 希釈した材料を保管するなど、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
- 防雨、防かび対策は、塗膜を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防雨、防かび効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにかび、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
- 施工部位により、傾斜部や下端部、水切りのない部位、窓周りで水切りが不十分な場合、雨掛りの少ない部位などには低汚染性が十分に発揮されない場合があります。
- 各シンジリング材は可塑剤の含まないソフトシンジリング材を使用してください。また、シンジリング材の直接接合する場合、シンジリング材の種類や材齢によって塗膜が付着しない場合があります。詳しくは最寄りの営業所に相談ください。
- 改修工事の場合、下地を既に既存塗膜に膨れ、縮み(リフティング)などの異常が発生することがあります。事前に試し塗りを行い確認してください。特に、2液反応硬化形溶剤系塗料系塗料での改修において、既存下地が塗料シンナーで容易に溶解する場合、縮みや膨れが発生する恐れがあるため、塗膜は避けてください。
- 磁器タイル・付着する可能性がある部位と変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗膜表面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。
- 直射日光下や屋外、0℃以下での使用はしないでください。
- 硬化後は、湿気(硬化)による湿気を十分に脱離してください。
- 建築用土上塗材(JIS A 6909) 雑居建築物およびより改修建築物は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を一般的な使用法により施工してください。

【安全衛生上の注意事項】

- 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート:JISMSDS)を参照してください。
- 取扱いは手洗い、うがいをして十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防滴・防塵マスクなどを着用してください。
- 火花を生じない工具を使用してください。
- 屋外では換気の良い場所でのみ施工し、火気厳禁にしてください。
- 必要な時期には、環境への放出を抑制してください。
- 製品の混ぜ合わせは、防護型ミキサーで行ってください。また、必ずアースを取ってください。
- 火災時には、炭酸ガス、泡まき粉末消火器を用いてください。
- 目に入った時は速く水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 顔に飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にふれたり着くことがありますが、皮膚に付着しないように注意してください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸でよく洗ってください。皮膚剥離または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。
- 粉じん、揮発物等を吸い込んだり気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 使用後保管する際は無希釈の状態でしっかりと密栓して40℃以上の温度下には保管しないでください。できるだけ早く使用してください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所にて保管してください。
- 保管場所、取り扱い場所とその周辺には、塗膜、乾燥中にも、熱、火花、高温体のような発火源を遠ざけ火気厳禁としてください。取扱いは、法令に沿って保管を行い、特に乾燥中は蒸発の面積が広くなるため、短期間に引火性の高い蒸気が発生します。注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床材の保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の服を着用してください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料や塗料の付いた布など処分する際は、法令に従い産業廃棄物として処理してください。
- 塗料、塗器等を洗浄した汚水、塗料の付いた布などはそのままだけ排水溝に流すに環境に悪影響を及ぼすため、それらが下水などに、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

建物を強く、
美しく。
進化した
「最強塗料」の
超技術。

超進化技術

W無機複合技術

塗料の主成分である樹脂には、硬く割れやすいが紫外線に強い「無機」と、柔軟性があり割れにくいが劣化しやすい「有機」の2種類があります。

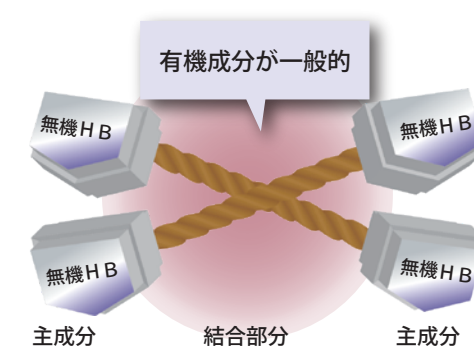
近年、高耐候性塗料として発売されている無機有機ハイブリッド塗料は、耐候性と柔軟性を兼ね備えています。無機成分を有機で繋いでいるため、有機結合部の耐候性に難点がありました。

新開発された「RATEL(ラーテル)」は、主成分と結合成分の両方を無機ハイブリッド化しました。このW無機複合技術により、従来品と比べ、耐候性を圧倒的に向上させることに成功しました。

W無機で 30年超えの耐久を実現！

※保証値ではなく塗膜自体の期待耐用年数です。

一般無機有機複合樹脂

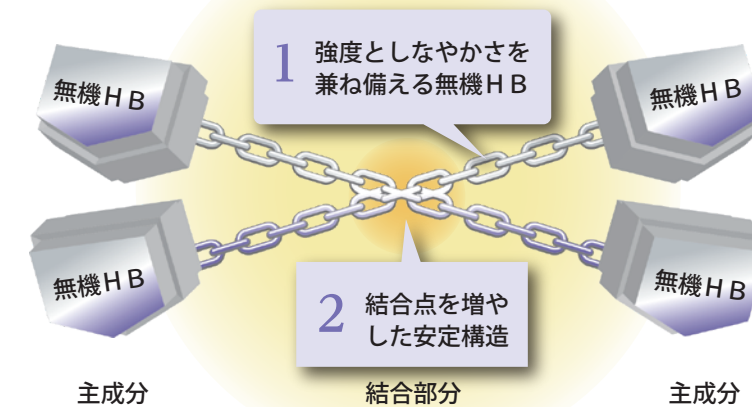


有機成分は無機成分より結合が切れやすい

※HB：ハイブリッド

W無機複合技術 (RATEL(ラーテル))

結合部分にも無機を使用！

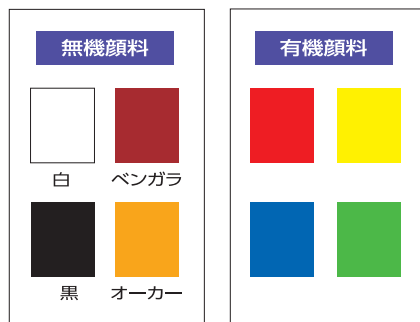


超進化技術

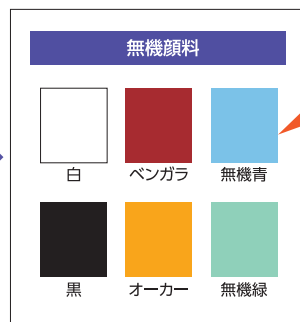
無機顔料調色

有機顔料は発色に優れていますが、変退色しやすいです。無機顔料のみを使用した調色により、変退色を大幅に抑えます。

従来着色顔料



ラーテル着色顔料



無機(青・緑)顔料を使用！

超耐候性

超耐候性

高耐候デンスシリカ処理技術

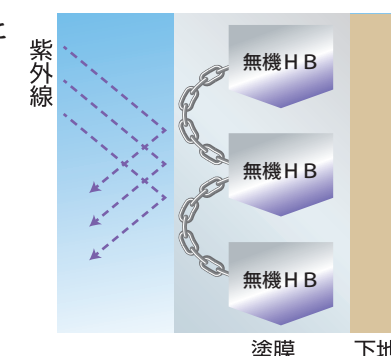


酸化チタンを分厚いシリカの層で保護することにより、紫外線が酸化チタンに届くのを防ぎ、ラジカルの発生を抑え、耐候性を向上させます。

超進化技術

チェーンメイル技術

無機成分を表面に配置させることで、耐候性をより強くします。



柔軟性

弾性塗膜にも施工可

弾性主材(JIS A 6909)の上にも塗装可能です。

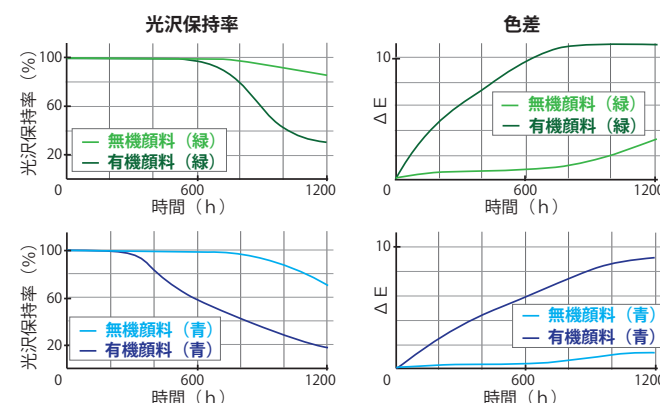
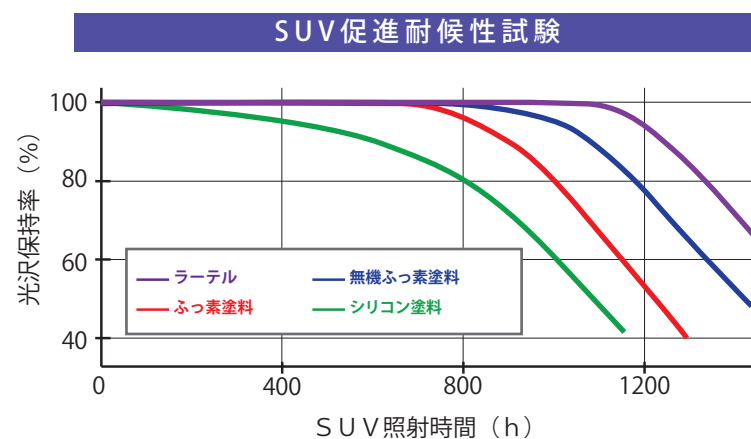
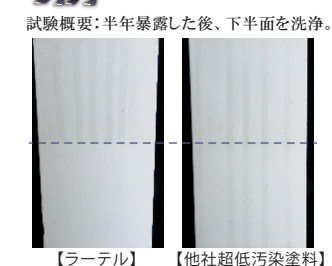
※下記は可とう性の試験です。試験条件:温度5℃



超低汚染

優れた低汚染性

無機複合の親水性による低汚染性で、他社無機複合塗料よりも雨の力で汚れを洗い流し、キレイな壁面を保ちます。



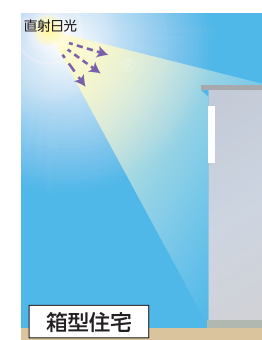
無機顔料を使用した塗料は、有機顔料を使用した塗料に比べ、光沢の低下を抑えられます。

無機顔料を使用した塗料は、有機顔料を使用した塗料に比べ、色差は小さいです。

箱型住宅にはラーテルがおすすめ



軒がある家は、箱型住宅に比べ壁面に当たる直射日光の面積が少なく、壁面の劣化を抑えます。



軒がない箱型住宅は、壁面に直射日光が当たり劣化しやすいので、ラーテルのような高耐候性塗料がおすすめです。